

2024 年度 運営計画

北星学園女子中学高等学校



Shine Like Stars
Hokusei Gakuen
Girls' Junior & Senior High School

I. はじめに

2024 年度年間句

「ですから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。」
～テサロニケの信徒への手紙5章11節～

サラ・C・スミス先生がアメリカから札幌に来て、この地でキリスト教を土台にした女子教育を立ち上げることにしたのは 1887 年のことでした。137 年後、キリスト教を土台にした教育という役割は変わらず、伝統を守り続ける努力をしている今、キリスト教教育以外の面においては変わらざるを得ない時代になっていることが分かりました。一方で、北星は 137 年間、常に未来を見据えて進んできた、その歴史を振り返って感じます。スミス先生の理念を大切にしながら、社会に必要な新しい理念を付け加えて新たな北星女子の一步を踏み出します。



北星学園女子中学高等学校
校長 カレン・ベッシン
Karen.E.Bessin

The fundamental idea of a school is to educate in the various branches of useful knowledge and thus fit the students for the various duties and responsibilities of active life. The religious and spiritual influence brought to bear on the pupils is the most important thing in the school. Both of these ideas may and should be realized in a good school.

本校の根本的な理想は色々な分野で役立つ知識を教育し、そうして生徒が、実生活の様々な義務や責任を果たすことができるようにすることです。さらに、生徒に与える宗教的、霊的影響は本校において最も重要なものです。この二つの理想は、良い学校を作るために実現されなければなりません。

Our future calls for individuals who:

- ・ Use love and compassion to understand and communicate with people from all backgrounds
- ・ Use information and technology ethically to improve the quality of life
- ・ Embrace flexible thinking and curiosity to innovate and retool (continue learning) in the face of society's changes

As a community of learners, we dedicate ourselves to supporting each other in developing and living these values.

未来には、次のような人材が求められます。

- ・ 愛と思いやりを持って、あらゆる背景を持つ人々を理解し、コミュニケーションをとれる人
- ・ 情報とテクノロジーを倫理的に使用して生活の質を向上させる人
- ・ 柔軟な思考と好奇心を持ち、社会の変化に直面して、革新と再構築を行う人

学ぶ者のコミュニティとして、私たちはこの価値観を発展させ、実践するためにお互いをサポートすることに専念します。

北星学園女子中学高等学校の中長期計画

★ 2040 年までに目指す姿

【重点項目】

- ・キリスト教教育
- ・女子教育
- ・言語教育

・新しい教育への取り組み

1. 神から招かれ認められた存在として送る学校生活の実現
2. 聖書に基づいた一人ひとりを大切にする教育の実現
3. 多様性の中でこそ求められるコミュニケーション能力を伸長させる教育の実現
4. 現代社会における女性の特性を踏まえた教育の実践
5. 自ら学ぶ姿勢と他者と共に挑戦する姿勢の獲得
6. 社会との繋がり実感する教育活動の実践

★ 強化・改革に取り組む事柄、2030 年 Milestone（中期目標）

「(資料) 北星学園女子中学高等学校の中長期計画」参照

★ 中長期計画の推進について

中長期計画の推進にあたっては、設定した「強化・改革に取り組む事柄」、「2030 年 Milestone（中期目標）」に基づいた単年度計画を策定し、浸透を図ります。そのうえで計画に沿って活動し、進捗管理・自己点検を通して各取り組みの推進を目指していきます。年度末には、運営総括のなかで各取り組みを評価し、次年度計画に引き継ぎながら中長期計画の推進を図っていきます。また、必要に応じて中長期計画を見直すことで、実態に即した取り組みとなるよう改善していきます。



中長期計画の推進についての概要図

Ⅱ. 重点施策

1. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びバラルーツ教育を展開する体制を構築する。

(1)	2025 年度の新カリキュラムではP B Lや探究学習を取り入れ、生徒の自主性とコミュニケーション能力を高める方向の教育体制を推進します。
-----	---

2. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(2)	日々の礼拝や講堂礼拝での感話や委員会・集会等での対話を重視することで、互いの価値観の違いを尊重し、安心安全な環境の構築に努めます。
-----	---

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(3)	ステップルームの環境整備（部屋、スタッフのスケジュール作成、利用基準等の検討）に努めます。
-----	---

(4)	ステップルームでのハイフレックス授業参加について検討します。
-----	--------------------------------

(5)	S S Wの加入に際し、活動を支援します。
-----	-----------------------

4. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(6)	入試委員会等で入試制度について検討し、教員会議に提案します。
-----	--------------------------------

5. 1クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(7)	2025 年度の新カリキュラム導入により、クラス構成と時間割を見直し、経営負担を削減します。
-----	--

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. 国際基準を軸としたグローバル教育を展開し、異文化理解の深化を図る。

(1)	留学生、海外の大学生のインターンを積極的に学校に招きます。
-----	-------------------------------

2. I C Tの教育活動への利用について研究し、P B L学習、G S L a bをはじめとした探究型教育の実践に活かす。

(2)	生徒主体の学びを促進するために、I C TやA Iを活用してP B Lを通じた実践的な学びの機会を増やします。そのため教員向けのI C TやA Iの研修実施も積極的に検討を行います。
-----	---

3. グローバル教育の一環として自国の言語への理解を深めるとともに、アジア圏内の言語（中国語・韓国語）を第二外国語として履修できる体制を構築する。

(3)	担当の外国語教員について 2024 年度中に情報収集を行います（カリキュラム内実施は 2027 年度から、放課後は 2025 年か 2026 年から実施予定）。
-----	--

4. 新しい学力観の育成として、現在取り組んでいる「商品開発」の継続・発展を図る。

(4)	外部の講演、放課後活動などで Entrepreneurship（起業家精神）について生徒に紹介します。
-----	---

5. 伝統と特長を活かした魅力あるカリキュラムを作成し、実践する。学面的なカリキュラムと同時に、人間性のカリキュラムを取り入れ、生徒の勉強の力と生きる力を同時に育てていくプログラム作り。

(5)	新カリキュラムの導入に伴い、観点別評価の研究など生徒の主体性をより重視した授業を展開するための準備を行います。通常の授業のみならず、GSやSTEAM教育などを通して、そうした主体性を育む活動を追求します。
-----	--

6. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びリベラルアーツ教育を展開する体制を構築する。

(6)	2025 年度の新カリキュラムではPBLや探究学習を取り入れ、生徒の自主性とコミュニケーション能力を高める方向の教育体制を推進します。
-----	---

7. 姉妹校をはじめとし複数の海外学校との提携を通して女子教育の世界的なネットワークを構築する。

(7)	北海道 International School との交流活動を追求します。
(8)	海外の中学校・高校との交流の可能性を追求します。
(9)	カナダ研修後、RCAとの交流を継続できる取り組みを模索します。

8. キリスト教教育に基づき、困難や試練の中にあっても平和を築く姿勢を確立する。

(10)	日々の礼拝や緑の教室、クリスマス礼拝などの行事等の活動を通してキリスト教的価値観を養います。こうした活動により他者への思いやりを育み、生徒により良い生き方を提示します。
------	--

9. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(11)	日々の礼拝や講堂礼拝での感話や委員会・集会等での対話を重視することで、互いの価値観の違いを尊重し、安心安全な環境の構築に努めます。
------	---

10. 上記目標やスクールポリシー・スクールミッション実現に向けた教員研修を実施し、教員の指導力を向上させる。

(12)	夏と冬の研修会のコンテンツの一部を選択制（例：ICTとAIから選択）とし、よりそれぞれの教員の必要に応じた研修とします。
------	--

(13)	教員ごとの年間目標を設定します。
------	------------------

Ⅱ.生活指導

1. 自律した生活習慣を身に付け、自治の精神が根付いた集団作りを行う。

(1)	教員も積極的に自治研修や委員会に参加し、学校全体で自治精神の涵養と活動の推進を図ります。
-----	--

2. 女子単学の環境を活かし、自己を受け入れ挑戦できる土壌を構築する。

(2)	授業での主体的な学びを通して、それぞれの生徒に人間教育プログラムや女子校交流活動への積極的な参加を促します。
(3)	さまざまな行事への参加を通して主体性や他者との協働性を養う様々な行事を企画し、実施します。

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(4)	ステップルームの環境整備（部屋、スタッフのスケジュール作成、利用基準等の検討）に努めます。
(5)	ステップルームでのハイフレックス授業参加について検討します。
(6)	S S Wの加入に際し、活動を支援します。

4. 新しい学力観を充実させるために、学校規模に見合う部活動体制を構築し、大学との連携を図る。

(7)	改革推進委員会で検討・作成し、教員会議を経て実施の準備を行います。
-----	-----------------------------------

Ⅲ.進路指導

1. 高大連携授業の内容と成果を検証し、多様な連携の在り方を模索し、学園内進学者の増加を目指す。

(1)	高大連携授業で北星学園大学や看護医療系への進路選択支援を行います。
(2)	同盟の大学等との連携プログラムを強化していきます。
(3)	教員も進路先の特色を十分に理解し、生徒の進路決定をよりしっかりと支援します。

2. 海外大学への進学も含め、一人ひとりの生徒が望む多様かつグローバルな進路を実現する指導体制を構築する。

(4)	世界で活躍する卒業生等の話を聞くことができる講演を充実させます。
(5)	外部団体等と連携し、英語力を活かせる大学や海外大学の情報を生徒に提供します。
(6)	海外大学指定校推薦制度について研究します。

3. 一人ひとりが目指す生き方を体現する進路選択が可能となる進路指導体制を確立する。

(7)	進路説明会や相談会等の実施を通して、より幅広い進路選択を支えます。
(8)	スタディサプリを活用し、生徒自身の自立した学習を促進します。
(9)	進路実現に向けて模試や資格検定の機会活用を積極的に促します。

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(1)	入試委員会等で入試制度について検討し、教員会議に提案します。
-----	--------------------------------

2. 通信制学校の研究と設置に向けた検討を行い、多様な学び方の実践と、生徒数の増加を目指す。

(2)	複数の可能性について運営会議で検討します。
-----	-----------------------

3. 留学生・帰国子女入学生の積極的な誘致やインターナショナルスクールとの関係構築を図ることで、グローバルな空間を構築する。

(3)	英語版のホームページやSNSの作成について検討を行います。
(4)	本校留学生と在校生の交流の機会を設けます。
(5)	留学した生徒の経験を共有できる機会を設けます。

II. 働き方改革

1. 教頭の役割分担の見直しを行います。

(1)	教頭の役割分担の見直しを行います。
-----	-------------------

2. 教員の働きと役割を整備し、業務内容のスリム化を実現する。

(2)	分掌等の業務内容や分担について検証を行い、業務の効率化を目指します。
(3)	現行の学校運営を検証し、学年やコース等の活動内容を確認し、その意義を検証します。
(4)	学校行事に関しても活動内容を確認し、運営等で見直しできないか検証します。
(5)	オンラインでの生徒対応などの業務についても見直しを行い、効率化を図ります。

Ⅲ. 採用計画

1. 建学の精神を継承しつつ、新しい時代のキリスト教学校を担うに相応しい教員の採用を行う。

(1)	キリスト教教育を受けた卒業生の動向を把握し、本校を支える教員を採用する際の一助とします。
-----	--

2. 学校の適正規模を念頭に置いた人事計画を作成し、適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(2)	学園内の大学や同盟各校との交流を促進し、今後の交流や配置等について検討を行います。
-----	---

V. 財務

Ⅰ. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	入学者増に向けて、SNS等を活用した学校の魅力の発信、卒業生のネットワークの活用、他校の事例及び広報活動の研究、ホームページリニューアルによるPR強化等、広報活動を積極的に展開します。
(2)	様々な外部の通信制学校の事例を研究します。

2. 1クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(3)	2025 年度の新カリキュラム導入により、クラス構成と時間割を見直し、経営負担を削減します。
-----	--

3. 奨学金制度に頼らない募集方法を研究し、奨学金の削減を図る。

(4)	新しい奨学金制度を、生徒募集とのバランスを考慮しながら検討・実施します。
-----	--------------------------------------

4. 学園全体の活動を海外在住の卒業生・関係者にもアピールすることで、新しい寄付金募集体制を構築する。

(5)	同窓生のデータベースづくりについて検討を行います。
(6)	同窓生から情報を収集します。

Ⅱ. 施設・設備

1. 札幌中心部に位置する学校として、校地・施設を地域に開かれたものとして活用する一方、南4条北側校地や盤溪校地の有効活用を図る。

(1)	花壇の整備を行います。
(2)	百周年記念館の見学開放をより積極的にPRします。

(3)	盤溪校地の実態調査を行います。
-----	-----------------

2. CALL 教室機器の老朽化に伴い、探究型教育言語教育に有効に活用できる施設を設計する。

(4)	CALL 教室については協働的学習や個別最適化学習のための場としての活用方法について研究します。
(5)	English Lounge の活用方法について研究します。

3. スミス寮の国際化についての研究と検討を行う。

(6)	国内の国際寮（中学・高校）について情報収集を行います。
-----	-----------------------------

以 上

北星学園女子中学高等学校の中長期計画

スクール・ミッション

「自分らしさを大切にし、他者とともに生き、輝くことができる女性」 ・自分らしさを大切にできる人間の育成 ・他者と共に生きる力を身に付けた人間の育成 ・社会に貢献できる人間の育成
--

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄			2030年Milestone（中期目標）
【重点項目】 ・キリスト教教育 ・女子教育 ・言語教育 ・新しい教育への取り組み 1. 神から招かれ認められた存在として送る学校生活の実現 2. 聖書に基づいた一人ひとりを大切にす る教育の実現 3. 多様性の中でこそ求められるコミュ ケーション能力を伸長させる教育の実現 4. 現代社会における女性の特性を踏まえ た教育の実践 5. 自ら学ぶ姿勢と他者と共に挑戦する姿 勢の獲得 6. 社会との繋がり実感する教育活動の実 践	教 学	Ⅰ 教科教育	ス ク ー ル ・ ポ リ シ ー を 踏 ま え た 教 育 を 実 施 し、 ス ク ー ル ミ ッ シ ョ ン の 実 現 を 目 指 す。	国際基準を軸としたグローバル教育を展開し、異文化理解の深化を図る。
				ICTの教育活動への利用について研究し、P B L 学習、G S Labをはじめとした探究型教育の実践に生かす。
				グローバル教育の一環として自国の言語への理解を深めるとともに、アジア圏内の言語（中国語・韓国語）を第二外国語として履修できる体制を構築する。
				新しい学力観の育成として、現在取り組んでいる「商品開発」の継続・発展を図る。
				伝統と特長を生かした魅力あるカリキュラムを作成し、実践する。
				建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びリベラルアーツ教育を展開する体制を構築する。
				姉妹校をはじめとし複数の海外学校との提携を通して女子教育の世界的なネットワークを構築する。
				キリスト教教育に基づき、困難や試練の中にあっても平和を築く姿勢を確立する。
		Ⅱ 生活指導		キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。
				上記目標やスクールポリシー・スクールミッション実現に向けた教員研修を実施し、教員の指導力を向上させる。
				自律した生活習慣を身に付け、自治の精神が根付いた集団作りを行う。
				女子単学の環境を生かし、自己を受け入れ挑戦できる土壌を構築する。
				新しい学力観を充実させるために、学校規模に見合う部活動体制を構築し、大学との連携を図る。

2040年までに目指す姿	強化・改革に取り組む事柄			2030年Milestone（中期目標）
【重点項目】 ・キリスト教教育 ・女子教育 ・言語教育 ・新しい教育への取り組み 1. 神から招かれ認められた存在として送る学校生活の実現 2. 聖書に基づいた一人ひとりを大切にす る教育の実現 3. 多様性の中でこそ求められるコミュ ケーション能力を伸長させる教育の実現 4. 現代社会における女性の特性を踏まえ た教育の実践 5. 自ら学ぶ姿勢と他者と共に挑戦する姿 勢の獲得 6. 社会との繋がり実感する教育活動の実 践	教 学	Ⅲ 進 路 指 導	スク ール・ ポリ シーを 踏まえ た教育 を実施 し、 スク ールミ ッショ ンの実 現を目 指す。	高大連携授業の内容と成果を検証し、多様な連携の在り方を模索し、学園内進学者の増加を目指す。
				海外大学への進学も含め、一人ひとりの生徒が望む多様かつグローバルな進路を実現する指導体制を構築する。
				一人ひとりが目指す生き方を体現する進路選択が可能となる進路指導体制を確立する。
	経 営 ・ 管 理	Ⅰ 募 集 体 制 と 広 報		探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。
				通信制学校の研究と設置に向けた検討を行い、多様な学び方の実践と、生徒数の増加を目指す。
		留学生・帰国子女入学生の積極的な誘致やインターナショナルスクールとの関係構築を図ることで、グローバルな空間を構築する。		
		Ⅱ 働 き 方 改 革		管理職体制の見直しを図り、教育改革と学校運営に対応できるマネジメント体制を整備する。
				教員の働きと役割を整備し、業務内容のスリム化を実現する。
		Ⅲ 採 用 計 画		建学の精神を継承しつつ、新しい時代のキリスト教学校を担うに相応しい教員の採用を行う。
	学校の適正規模を念頭に置いた人事計画を作成し、適正な人員配置を実現できる体制を構築する。			
	財 務	Ⅰ 財 務 運 営 方 針		2030年に向けて設定した財政運営目標を達成する。
				1 クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。
				奨学金制度に頼らない募集方法を研究し、奨学金の削減を図る。
		Ⅱ 施 設 ・ 設 備		学園全体の活動を海外在住の卒業生・関係者にもアピールすることで、新しい寄付金募集体制を構築する。
				札幌中心部に位置する学校として、校地・施設を地域に開かれたものとして活用する一方、南4条北側校地や盤溪校地の有効活用を図る。
				C A L L 教室機器の老朽化に伴い、探究型教育言語教育に有効に活用できる施設を設計する。
				スミス寮の国際化についての研究と検討を行う。